

9月第1週には台風が通過しましたが、9月になっても暑い日が続いており、地域の子どもたちがまだ夏休中であるかのような感覚になることがあります。皆様いかがお過ごしでしょうか。くれぐれも体調にお気をつけてください、毎日を過ごされますように、お祈りいたします。



さて今年の夏は、この四国内ですが、子どもたちといくつかの川やダムを見に行くことができました。教会からいちばん近いところに「府中ダム」があり、ここはしばしば気分転換に行くことがあります。ほかにも早明浦ダム(吉野川)、野口ダム(財田川)、田万ダム(綾山湖)に行くことができました。故郷の群馬県にはハッ場(やんば)ダム、草木ダムなど多くのダムあります。香川県は比較的雨の少ない県ですので、季節によってダムの貯水率はいつも気になるものです。複数のダムに行ってみてふと考えました。「ダム」というのはどのような目的で造られているのか、その役割は何か、「水を貯めておいて、必要に応じて調整して使う」程度の認識しかありませんでしたが、調べてみると次のように書かれていました。

「ダムは、洪水調節、水資源の確保(水道・農業・工業用水)、水力発電、河川環境の保全(流水の正常な機能維持)といった4つの主要な役割を担っています。雨の多い日本では、ダムに洪水を貯めて下流地域を守り、また逆に水不足の際には貯めた水を放流して安定した水供給を行い、暮らしを支えています。」と。それぞれの4つの主な目的(役割)も詳しく説明されていましたがここでは省略します。つまり「造られたもの」には必ず目的があることを改めてダムからも教えられます。扇風機は涼むため、洗濯機は衣類を洗うためです。近年、持ち運びのできる小型扇風機を持っている人々をよく見かけます。私たちという存在も目的をもって造られました。それは神様の栄光のために、つまり神様の素晴らしさを表すためです(旧約聖書・イザヤ書43章7節)。早明浦ダムは工事中でしたので、ダムの水全体を見ることができませんでしたが、場所によっては減水した様子もわずかに見えました(右上の写真は先日の台風前の光景。台風で貯水率も回復したとのニュースもありました)。ダムについて調べてみると歴史の中で、そこに住む人々のダム建設反対運動などがあったり、建設のためにある村を「犠牲」にして、無くすといいわゆる「ダムに沈んだ村」も全国にはあることを知りました。

早明浦ダムもそのうちの一つのようですが、村が「犠牲」になることによって、その地域に住んでいた人々は故郷をあとにしなければなりませんでした。その一方で、ダムが造されることによって、さまざまな役割が果たされ、その水の恩恵を受ける多くの人々の生活があることも分かりましたし、ここでイエス・キリストの「犠牲」ということについて考えましょう。

聖書のマルコの福音10章45節には「人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。」「人の子」とはイエス・キリストを指しています。イエス・キリストがこの地上に来られたのは、ご自分の目標達成や自己実現ではなく、へりくだって人々に仕え、人類の罪のために、ご自身の尊いいのちを犠牲にしてくださるためでした。「贖いの代価」は犠牲を物語っています。その犠牲によって、救い主イエス・キリストを信じる人に対して、神様は罪の赦しと永遠のいのちを約束してくださいました。これほど大きな犠牲はありません。私たち人間はだれかのための手助けになることはできます。相手の必要に応じて、行動することも確かにできます。しかし「いのち」ということを考えたときに、見失われた私たちのいのちのために、あの十字架においてご自身のいのちを犠牲にしてくださることによって、キリストのいのちに生かされるようになりました。9月14日(日)にはすでに天に召された方々を偲び、「いのち」や「死」について、「希望」や「再会」について考える「召天者合同記念礼拝」も予定されています。

全く罪のない聖なる神の御子イエス・キリストは十字架で私たちのすべての罪を背負ってくださり、苦しみと死をされました。神様は、悔い改めて方向転換し、神様を神様として信じる人の罪を赦してください、信仰によって「神の子ども」として受け入れてくださいます。私たちは、意識するしないに関わらず、罪のゆえに神様に敵対している存在でしたが、イエス・キリストの十字架の犠牲のゆえに、今は唯一の神様によって和解させていただき、親しい関わりを持つことができるようになりました。ご自分のいのちを「犠牲」にしてまで、私たちにまことのいのちを与えてくださるのであります。

真実な愛を貫かれ、人々にあわれみを注いでくださる神様がさらにどのようなお方であるのか、また私たちの日常生活にとって、その十字架の犠牲がどのような意味を持つのかを深く思いめぐらすことができますようにお祈りいたします。